

## 未来創造科 目標

探究的な見方・考え方を働かせ、地域や社会が直面する課題に取り組む未来創造科の学習を通して、創造的な問題解決や未来志向的な構想・提案に携わることで、自己の生き方や社会のあり方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 地域や社会が直面する課題をテーマとした探究的な学習過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身につけるとともに、課題が生じる背景を捉えることができる。
- (2) 地域や社会が直面する課題の解決に向けて問いを立て、その解決に向け、試行錯誤し、探究の成果を地域や社会に対して発信・表現することができる。
- (3) 地域や社会が直面する課題をテーマとした探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを認めたり活かしたりしながら、地域や社会の未来を担うための行動を創造的に考え実践できる。

### 【解説】

#### ○目標の基盤

未来創造科は、島根大学教育学部附属義務教育学校のスタートにあたって、総合的な学習の時間を中核にして新たに設置された学校設定科目である。

本科目は、義務教育学校の設置認可にあたり、「教科学習と連動した体験型・探究型の授業」を通して、「これからの時代に必要とされる資質・能力の育成」と「学力につながるあたらしい『ふるさと教育』の創造」を目指すものとされた。さらに、従前の総合的な学習の時間をより一層魅力化し、地域のモデルとなりうる科目とすることが必要とされた。

「これからの時代に必要とされる資質・能力」についての具体は、平成30年度に開催された「未来創造科ワーキンググループ」を中心に検討され、「主体的に課題を見つけ、様々な他者と協働しながら答えのない課題に粘り強く向かっていく資質・能力・態度（論理的思考力、想像力、問題解決力、コミュニケーション力、学習意欲、感性等）を育成し、地域の未来を担う人材育成に資する」ことなどが掲げられた。

#### ○学習指導要領における総合的な学習の時間

総合的な学習の時間の目標については、以下の通り設定されている（中学校学習指導要領を例示）。

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、**課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し**、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から**問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる**ようにする。
- (3) 探究的な学習に**主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う**。

各学校において定める総合的な学習の時間の目標は、上記の目標を適切に踏まえて、この時間全体を通して、各学校が育てたいと願う生徒像や育成を目指す資質・能力、学習活動の在り方などを表現したものになることが求められる。

本校における「未来創造科」は、総合的な学習の時間を基盤としているため、目標の設定にあたっては以下の点を考慮することとした。

- (1) 「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通すこと」、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成すること」という、目標に示された二つの基本的な考え方を踏襲すること。
- (2) 未来創造科で育成を目指す資質・能力については、育成すべき資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の枠組みに沿って設定すること。

○島根大学教育学部附属義務教育学校における「未来創造科」の目標

これらの前提を踏まえて、未来創造科では、「探究的な見方・考え方を働かせ、**地域や社会が直面する課題に取り組む学習**」と位置づける。そして、児童・生徒はその学習を通じて「**創造的な問題解決や未来志向的な構想・提案に携わる**」ことで、「**自己の生き方のみならず社会のあり方を考える**」ことが求められる。総合的な学習の時間では、「横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく」と設定されているが、さらに踏み込んでいる。地域や社会が直面する課題の解決に主体的に取り組むことによって、社会のあり方を考えることは、将来にわたりその地域で自分自身がどう生きていくのかを考えていくことにつながっていく。すなわち、高等学校で設定される「総合的な探究の時間」への接続も円滑に行うことが可能となる。

目標の基盤で示した通り、未来創造科は、「教科学習と連動した体験型・探究型の授業」であるため、「横断的・総合的な学習」であることは言うまでもない。「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく」という点では、「よりよく課題を解決」することを超えて「創造的な問題解決や未来志向的な構想・提案に携わる」内容が期待されている。各学年の実態に合わせながら、それを目指す必要がある。そのためにも、創造的な問題解決につながるような様々な発想やアイデアを引き出す場面、問題解決のためのアプローチを学ぶ時間、あらゆる児童・生徒が未来志向的な構想・提案に携わる機会の保障を考えていく必要がある。これにより、将来、子どもたちが社会に出たときにイノベティブに課題解決できる人材育成を目指していく。

また、「自己のあり方」だけでなく「社会のあり方」を考えることも忘れてはならない。「未来創造科」では、児童・生徒が現状をよく理解し、課題を捉え、これからの社会を自分たちの手で担うという認識を形成することを共通理解する必要がある。

未来創造科で育成を目指す資質・能力については、「育成すべき資質・能力の三つの柱」である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の観点で次のように捉えられる。

(知識及び技能) 総合的な学習の時間の目標における「課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする」ことについて、未来創造科では「**課題が生じる背景を捉えることができる**」と設定している。地域や社会が直面する課題を解決するにあたって、そもそも何が課題であるのか、その課題にはどのような背景があるのかを理解することを「概念形成」と「理解」として重点化を図っている。

なお、「探究的な学習のよさ」については、未来創造科そのものがそれを志向するものであるのであえて明示していない。

(思考力、判断力、表現力等) 総合的な学習の時間の目標では、「実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する」とされているが、未来創造科においては「**地域や社会が直面する課題の解決に向けて問いを立て、その解決に向け、試行錯誤し、探究の成果を地域や社会に対して発信・表現する**」と設定している。

未来創造科の全体テーマから児童・生徒が「地域や社会が直面する課題の解決に向けて問いを立て」ることがスタートとなる。その問いに答えるために児童・生徒一人一人がまたそれぞれのグループで「解決に向けて、試行錯誤」することが学習活動の中核となる。これには、「情報を集め、整理・分析」することが当然含まれるが、調査やフィールドワーク等研究的な実践に着手したり、解決のためのものづくりやプログラミング等の創造的な活動に従

事したりすることにも広がっていくだろう。

そして、それらの探究の成果を発信するのが「地域や社会」である。教科等も総合的な学習の時間も学級内や校内の発表で終わることが少なからず見られる。そうではなく探究の成果を「真正の場」で発信し、地域や専門家等の様々な人から時に厳しいコメントを受けながら、成果の質を高めていくことが期待される。

(学びに向かう力、人間性等) 総合的な学習の時間の目標における「互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う」ことについては、未来創造科では、「互いのよさを認めたり活かしたりしながら、地域や社会の未来を担うための行動を創造的に考え実践できる」と踏み込んだ表現としている。まず、未来創造科における探究的な学習を通じて、「互いのよさを認める」ことを超えて一人一人がそれぞれの強みに気づき、グループや学級がそれらを活かせる舞台となることを目指さねばならない。それが自己肯定感の根源となり、お互いを認め活かすことにつながっていく。

そして、「積極的に社会に参画しようとする態度を養う」という目標設定では、評価もできず曖昧なまま終わってしまうことが想定される。それゆえ、未来創造科では、「地域や社会の未来を担うための行動を創造的に考え実践できる」ことを目標として設定している。未来創造科の学習で得たものを、様々な可能性を追究しながら「自分事」として学校生活や日常生活で実践できることが期待される。そうでなければ、目標の基盤で示した「地域の未来を担う人材育成に資する」ことは叶わないと言えるだろう。

○島根大学教育学部附属義務教育学校における「未来創造科」の内容に求められること

以上のような議論を受け、令和元年度の未来創造科ワーキンググループでは、上記に掲げた未来創造科の目標を策定し、大まかなカリキュラムの方向性として、前期課程では、「各学年の教科・領域で学んだことを関連させながら、日常生活や身近な地域や社会に目を向け、子どもが自ら課題を設定し探究的な活動に取り組む」こと、後期課程では、「各学年の教科・領域での学習成果を活用し、地域課題の現状分析や課題解決的地域活動を通して、地域を魅力ある(住みたい)まちにするための未来志向的課題解決を行い、その成果を地域に発信する」ことが示された。